

# JDS

The Project for Human Resource Development Scholarship

## 人材育成奨学計画

### JDS とは

人材育成奨学計画（The Project for Human Resource Development Scholarship：通称 JDS）とは、政府の「留学生受入 10 万人計画」の下、1999 年度に設立された無償資金協力による留学生受入事業です。2020 年度には 16 カ国から 300 名を超える留学生を受け入れ、これまでに来日した留学生は、修士課程と博士課程合わせて 5,000 名を超えます。



開発課題の解決に貢献する  
リーダーの育成



二国間パートナーシップの強化



世界に広がる JDS の輪

# 日本のパートナーとして世界中に懸け橋を



独立行政法人 国際協力機構 (JICA)  
理事長 北岡 伸一

JDS は、2020 年に 20 周年を迎え、5,000 名を超える留学生が日本で学んできました。留学生が日本で学ぶ意義は、日本の近代化の経験を学べる事にあります。日本は、非西洋から先進国となった最初の例であり、伝統と近代を両立させ、自由で平和で豊かな民主的な国を作り上げた、途上国の発展のベストモデルの一つです。この考えから、JICA は 2018 年に「JICA 開発大学院連携事業」を開始し、開発途上国の未来と発展を支えるリーダーとなる人材を日本に招き、欧米とは異なる日本の近代の開発経験と、戦後の援助実施国（ドナー）としての知見の両面を学ぶ機会を提供しています。本事業は、JICA が実施してきた留学生受入事業を包括するもので、JDS はその中心をなす事業の一つです。

JDS 留学生には、各専門分野の大学院で学んでいただくとともに、「JICA 開発大学院連携」事業を通じて体系的に日本の経験を理解する機会を提供しています。日本で学んだ行政官が帰国後リーダーとなり、信頼できる日本のパートナーとして活躍すること、そして相手国と日本との関係が中長期的に維持・強化されることを期待しています。今後は、日本に留学してよかったと言ってもらえるよう、プログラムや帰国後のフォローアップ活動を充実させるなど他留学事業との差別化を図り、より魅力的な事業を展開していきます。

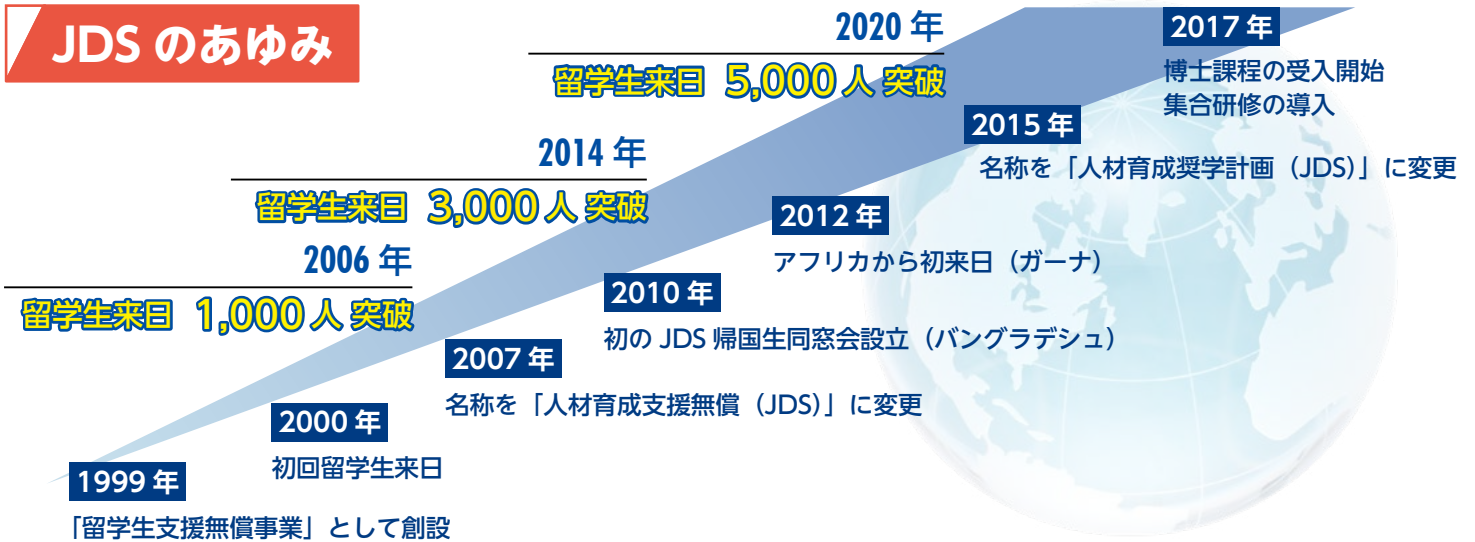
## 受入実績のある大学 (計 41 大学)



# 世界に広がる JDS の輪

JDS は 2000 年の初来日以来、2020 年度末時点において累計 18 カ国<sup>(※1)</sup>より計 5,029 人の留学生を迎え、JDS の輪は世界各国に広がっています。

## JDS のあゆみ



初の JDS 留学生来日



帰国生初の大臣となった法務大臣 (在任期間: 2016 年~2018 年) のアフメトフ・ウラン・トゥロンディエヴィチ氏 (キルギス)

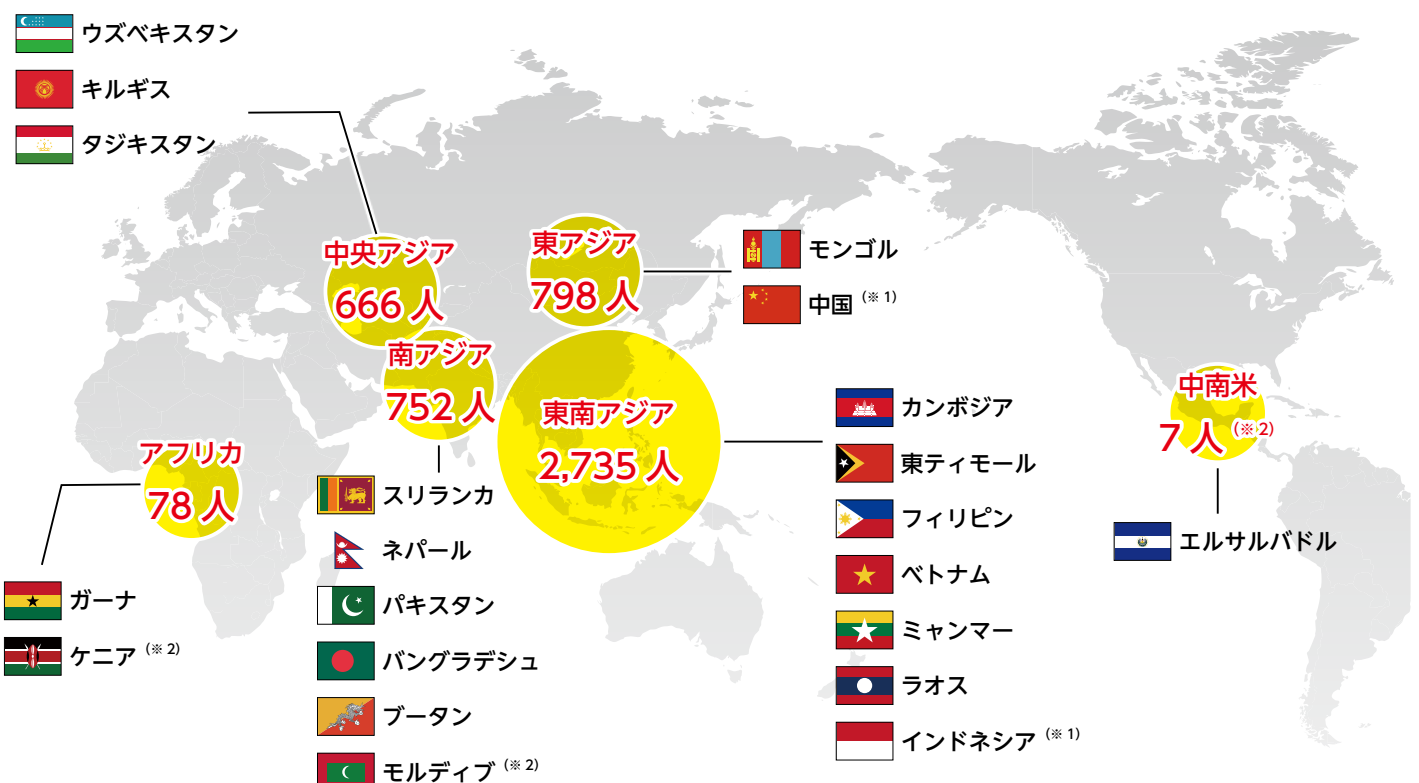


集合研修では、全国から JDS 留学生が一同に会し、留学生間のネットワーキング強化、帰国後の活躍に向けた意識醸成を図ります。

## 2020 年度 地域別受入実績数 (累積)

※ 1 インドネシアは 2006 年に、中国は 2012 年に受け入れが終了。

※ 2 2021 年度からの受入予定国。中南米については 2021 年度受入予定人数を記載。



# 開発課題の解決に貢献する リーダーの育成

JDS は、開発途上国の優秀な若手行政官等を本邦大学院に迎え、社会・経済開発計画の立案・実施に係る専門知識を身につけてもらうことで、開発課題の解決に寄与します。

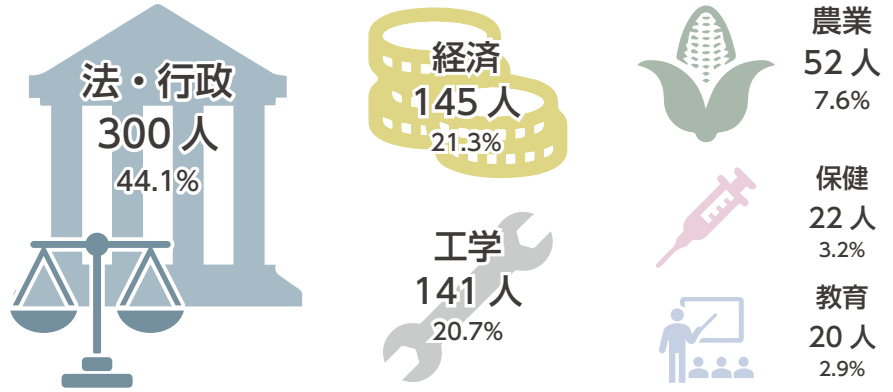
## 受入分野

JDS による協力が有効と考えられる各国の優先分野・開発課題に対し、4年間の受入計画を策定し継続的に留学生を迎えます。

## 受入大学

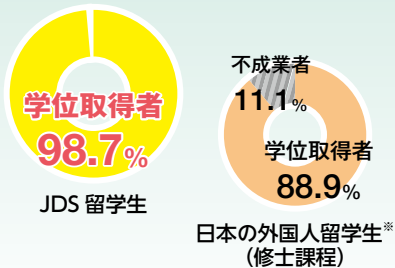
事業開始以来、総計 41 の大学が JDS 留学生を受け入れています。国内においても強固な JDS ネットワークが構築されるとともに、日本の大学の国際化にも貢献しています。

### 受入分野ごとの滞在中留学生数 (2020年5月時点)



## 高い学位取得率

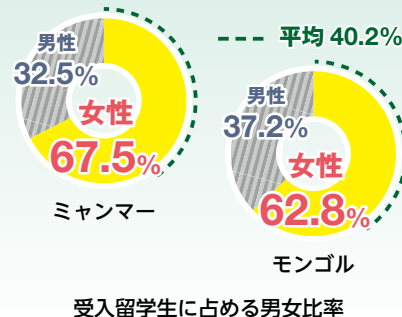
JDS 事業全体の学位取得率は対象国別にも 95.9% ~ 100% の範囲にあります。日本全体の外国人留学生学位取得率 (修士課程) と比較しても、高い水準を保っています。



\* [外国人留学生学位授与状況調査] (JASSO) より

## 女性行政官の活躍に貢献

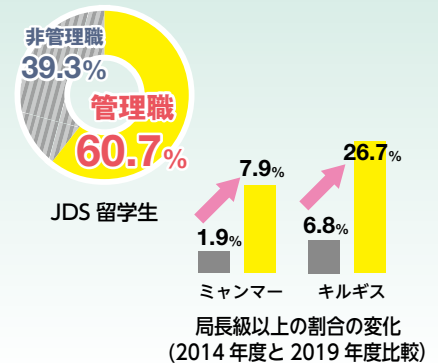
対象国における女性行政官の割合は平均 40.2%。対象国の約半数において受入留学生に占める女性の割合が上昇しており、女性行政官の人材育成への貢献度合いを高めています。



受入留学生に占める男女比率

## リーダー育成に寄与

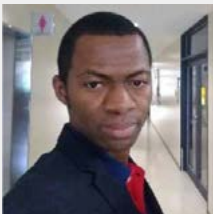
JDS 帰国生に占める管理職の割合はバングラデシュで 97%、タジキスタンで 70% 以上と非常に高く、リーダー育成に寄与しています。



局長級以上の割合の変化 (2014年度と2019年度比較)

## ガーナの子どもの健康改善に貢献

JDS 留学後は、日本留学中に取得した研究スキルを活かして事業プロポーザルを作成し、UNICEF や WHO などから事業資金を得ることができました。結果、州レベルの予防接種事業を拡充させ、2歳児のワクチン接種率を 10% 程改善することができました。



ユージーン・オセイ・イエボー氏

出身：ガーナ  
 留学先：長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科  
 留学期間：2016 ~ 2018年  
 所属：ガーナ保健サービス局 保健サービス郡局長

## 国家の財政健全化を目指して

帰国後に主要メンバーとして携わった Internal Credit Risk Rating System (ICRRS) の運用では、留学中に得た知見や JDS 帰国生からの情報が役に立っています。同システムがうまく機能すれば、国の債務不履行に係るリスクを下げるため、大きな期待が寄せられています。



シーカ・フスネ・アラ氏

出身：バングラデシュ  
 留学先：国際大学国際関係学研究科  
 留学期間：2007 ~ 2009年  
 所属：バングラデシュ銀行 銀行規制・政策局  
 ゼネラルマネージャー

# 二国間パートナーシップの強化

JDS は留学生受け入れを通じ、日本国内のネットワークに加え、帰国後に当該国の中核人材となる行政官との人的パートナーシップを構築します。

## 日本語・日本文化への理解深化（来日前）

JDS 留学生としての意識醸成とともに、来日前オリエンテーションでは、日本語研修や日本に関する講義を提供し、留学生活の円滑なスタートに役立っています。



## 豊富なネットワーク構築の機会（留学中）

JDS 留学生と日本の行政官とが幅広い意見交換を行い、お互いが長期的な関係を構築することを目的として、若手行政官の交流会を実施しています。

その他、集合研修や大学での特別提供プログラムを通じ、ネットワーク形成の機会を豊富に提供しています。



日本の行政官との交流会



## つながりの維持・発展（帰国後）

JDS 留学生は、自国で帰国報告会を開催し、学業成果の発表を行います。報告会には所属機関の職員や日系企業、JDS 帰国生も参加し、自国での縦横のネットワーク強化につながっています。

各国の JDS 同窓イベントとして、記念式典や写真展、ネットワーキングイベントが頻繁に開催され、JDS ネットワークを維持拡大する場となっています。



(上) ラオスで開催された「JDS20周年記念式典」  
(左下) バングラデシュでの「Sugoi Japan」写真展  
(右下) ラオスでの帰国報告会

## JDS 留学を通じた日本との絆の深まり

JDS 留学生の帰国後の日本とのつながりを表す評価はいずれも高く、JDS 事業への参加により、親日感情が深まっていることがわかります。

	全く感じない					強く感じる
	1	2	3	4	5	
日本人・日本に対する信頼						4.69
日本の社会・文化への理解						4.66
日本人と一緒に働くことへの興味						4.60

「人材育成奨学計画（JDS）事業の効果検証」基礎研究報告書（JICA）より

## 多様性を認め合う日本人の姿を 母国の人々にも伝えたい

私は車いすを利用しています。日本では殆どの施設がバリアフリーであることに驚き、また、駅で困っていた時に通りがかりの方が声を掛けてくれただけでなく、目的地まで案内してくれました。日本人は障がい者や外国人に対してインクルーシブであることに強く感銘を受けました。また、日本人行政官の仕事に対する姿勢にも学ぶところが多くありました。帰国後には、若手行政官対象に短期間でも日本での研修機会が持てるよう提案を行いたいと思っており、また日本文化に関する本を執筆し、日本の良さをパキスタンの行政官や一般に広く伝えたいと考えています。日本で過ごす機会を持てたことに心から感謝しています。



### コーサ・ザイガム・アッラー氏



出身：パキスタン  
留学先：国際基督教大学大学院アーツ・サイエンス研究科  
留学期間：2019～2021年  
留学前の所属先機関：パキスタン監査総局  
パキスタン鉄道 副財務アドバイザー兼主計長

## ネパールで初めての JDS 留学生 プラットフォーム構築を目指して

ネパールでは、JDS 帰国生向けの公式な同窓会がないため、帰国生同士がお互い学び合えるようなプラットフォームを構築したいと思っています。

JDS を通じて、大学の先生、日本人学生、そして 15 カ国以上の留学生と交流でき、それが私自身の財産になっていると感じます。同窓会ネットワークを通じ、帰国後も他国の行政官との学び合いを継続することで、行政官としての能力を向上していきたいです。



### サプコタ・アンジャン・ラージ氏



出身：ネパール  
留学先：九州大学大学院法学研究院  
留学期間：2020～2022年  
所属：ネパール最高裁判所 国際関係連携班 次席登記官

# JDS 留学生の 躍進

多くの JDS 留学生が帰国後、政府の中枢において社会・経済開発上の課題を解決する中核人材として活躍するとともに、現役留学生も大学や地域において様々な成果を出しています。JDS 帰国生を対象とした大規模調査からは、日本留学によって分析能力、発言力、問題解決能力、指導力、自国の課題への気づき、交渉力等の能力が向上するとともに、親日感情が深まっていることが明らかになっています。

## JDS 留学で培った幅広い知識と献身的な勤務姿勢が仕事に活かされている



グエン・ヴァン・クオン氏

留 学 先：新潟大学大学院実務法学研究科

留学期間：2002～2004年

所 属：司法省 司法研究所 所長

VIETNAM

### 🎓 留学での学び

新潟大学では競争法や消費者保護法について学びました。経済法の分野は当時のベトナムではとても新しい考え方であったため、日本の法律を分析することは非常に有益でした。

### 🏢 帰国後の仕事

帰国後間もなく、諸外国における消費者保護法の現状に関する研究プロジェクトに参加し、留学中に学んだ知識を早速活かすことができました。その研究成果はベトナム初の消費者保護法の制定につながりました。

帰国3年後には所属先研究所の民法・経済法研究部門の副部長になりました。この昇進には、私が日本留学で得た幅広い最新知識とともに忍耐力や献身といった勤務姿勢が評価されたものと思っています。

## ゼミでの経験が自分の視野を広げ、国策づくりにつながっている



アモンゾダ・シリル氏

留 学 先：立命館アジア太平洋大学大学院  
アジア太平洋研究科

留学期間：2014～2016年

所 属：労働大臣

TAJIKISTAN

### 🎓 留学での学び

留学中、観光産業の現場を見学し、事業に携わる人々の考えに触れるとともに、教授含めゼミのメンバー皆で夜遅くまで議論したことは大変有意義な経験でした。この経験は、母国で観光政策立案する立場となった今も非常に役立っています。

### 🏢 帰国後の仕事

帰国後、タジキスタン観光分野の課題であったビザ取得手続きの簡素化や、地方・山岳地帯の観光業の発展に注力してきました。政府主導での観光促進政策の舵を取り、国外からの観光客の増加に尽力しています。日本で学んだ他国の経験や政策などが私の知見を広げ、その知見がタジキスタンの国情に合った政策作りにつながっていると実感しています。

(※上記エピソードは前職就任時のもの)

## JDS 留学で養われたのは、俯瞰的に事業を見る視点とチームで発言する自信



ディッタ・マエ・カマチョ・シエナ氏

留 学 先：明治大学専門職大学院ガバナンス研究科  
(公共政策大学院)

留学期間：2015～2017年

所 属：公務員委員会 スーパーバイジング・  
ヒューマン・リソース・スペシャリスト

### 🎓 留学での学び

留学中は、公共政策の中でも特に公務員のモチベーション構造に関する研究をしました。日本で修士号を取得したことは、どんな大きな壁も努力すれば登ることができるという確信につながり、帰国した今でも困難な業務に直面しても自信を持って対応できるようになりました。

### 🏠 帰国後の仕事

フィリピンは現在、ビジネス環境の改善を通じた外資の誘致を目的に様々な法整備を進めています。私が参画している政府手続の簡素化・効率化を推進する Ease of Doing Business 法もその一つです。留学経験を通じて、フィリピンの公務員制度や法整備状況を俯瞰的に見ることができ、自信を持って発言できることを実感しています。そのパフォーマンスが認められ、帰国後から1年程で現在の職位に昇進しました。

## JDS 留学で形成したネットワークが今の仕事を支えている



フン・ソティアロット氏

留 学 先：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科

留学期間：2016～2018年

所 属：カンボジア外務国際協力省  
メコン協力部 副チーフ

### 🎓 留学での学び

在日本カンボジア大使が前の上司であったこともあり、留学中はカンボジア大使館と頻りに交流し、日・メコン首脳会議にも参加させてもらいました。また、JDS 関連のイベントにも欠かさず参加しました。その中でも特に日本の行政官との交流イベントは、私の専門分野のネットワーク構築に役立っています。

### 🏠 帰国後の仕事

帰国後、カンボジアの代表メンバーとして第10回日・メコン地域諸国首脳会議に出席しました。その際には、留学中に得た日本人行政官とのつながりのおかげで、調整等をスムーズに行うことができ、会議全体も無事成功に終えることができました。



独立行政法人国際協力機構  
資金協力業務部

〒102-8012  
東京都千代田区二番町 5-25 二番町センタービル  
TEL : 03-5226-6660 から 6663 (代表)

<http://www.jica.go.jp/>

2021年12月